

第 10 回川崎市史市制 100 周年記念版編集懇談会 会議録（摘録）

- 1 日 時 令和 8 年 7 月 3 日（金）午後 7 時～午後 8 時半
- 2 場 所 川崎市総合自治会館 大会議室 1
- 3 出席者
 - (1) 委員 阿久津委員、大城委員、落合委員、嶋田委員、鈴木（ひ）委員、鈴木（勇）委員、竹内委員、中村委員、にしにし家委員、羽賀委員、望月委員
 - (2) 事務局 総務企画局コンプライアンス推進・行政情報管理部：吉永部長
総務企画局公文書館：柿木館長、堀切担当係長
TOPPAN 株式会社：浅井、鶴岡、中村
株式会社トップノック：片岡
市史だよりライター：早川
株式会社アーク・コミュニケーションズ：渡部、佐藤
- 4 次 第
 - (1) 開会／趣旨説明
 - (2) 議題の説明
 - (3) 紙面見本について意見交換(2)
 - (4) 進捗報告／今年度のワークショップに係る説明(2)
 - (5) 総括／次回案内
- 5 公開・非公開の別 公開
- 6 傍聴者 なし

（次第一 1） 開会／趣旨説明

事務局（片岡）

皆さま本日もよろしくお願いいたします。早いもので第 10 回に至りまして、残すところあと 3 回、本日を含めると 4 回となります。この事業も終盤に差し掛かっておりますので、これまでと同様に皆さまから様々なご意見をいただきまして、この本をよりブラッシュアップしていくため、本日も進めてまいりたいと思います。

まず、開会に先立ちまして、柿木館長よりご挨拶させていただきますので、よろしくをお願いいたします。

柿木館長

柿木でございます。本日はお忙しい中、第10回編集懇談会にご出席いただきまして誠にありがとうございます。

市制100周年記念版として制作を進めております「川崎歴史100年」でございますが、これまで委員の皆さまから多様な視点で、様々なご意見をいただいておりますので、ご協力に感謝申し上げます。

現段階では、紙面の編集作業を進めているところでして、市役所内部の各所属に、記載内容の確認を依頼しているところでございます。

また後ほど担当の堀切から説明があるかと思いますが、本の構成の一つであります「かわさき歴史百景」に掲載する市内の歴史スポットの写真募集を、先月6月15日から開始しているところです。こちらは市立小学校の夏休み前に、生徒さんに向けてチラシを各学校で配っていただき、多くの子どもたちから投稿いただければと考えております。

今日、皆さまのお手元にもお配りしておりますが、ぜひ投稿にご協力いただきますとともに、周りの方々にも投稿についておすすめいただけますと幸いです。

本日は、前回に引き続き紙面の内容について、今回も忌憚のないご意見をいただきますようお願い申し上げます。簡単ではございますがご挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いいたします。

事務局（片岡）

続きまして、堀切よりお願いします。

事務局（堀切）

私からは会議録の作成のお願いでございまして、前回はだいぶお待たせいたしました。が会議録の確認をお願いさせていただいたところです。本日ですが、第9回の会議録をホームページに掲載させていただきまして、皆さまにもメールにてご案内させていただいたところでございます。

また、第10回に関しまして同じように作成してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

（次第一２） 議題の説明

事務局（片岡）

それでは、本日の議題に入ります。

前回に引き続き、「記念市史を先読み！」として、お手元には事前にお送りしたメールにてご覧いただいたかと思いますが、本日も紙面の内容について議論してまいりたいと思います。

まず、事務局の浅井より紙面についてご説明させていただきます。よろしくお願いいたします。

事務局（浅井）

本日もよろしくお願いいたします。

こちらは（前回と）同じものですが、全9パートからなる「川崎歴史100年」の目次になっております。前は、この中から、「かわさき定点観測 -100years-」、「いつだって、川崎は【川崎テーマ史】」、「かわさきと共に歩んだひとびとの物語」と「地図で感じる歩きたくなる川崎史」の4テーマをご覧いただき、ご意見をいただきました。

本日は、それ以外のパートになります。一番目の「めくって楽しむ！川崎市の移り変わり」と、「市民が考えた！川崎【激狭】テーマ史」、「数字で振り返る川崎の100年 データが示す川崎の変化」という統計資料のページと、「川崎の年表」、こちらの4パートについて議論いただきたいと思います。最後の「かわさき歴史百景」は、先ほど館長よりお話がありましたが、現在募集中の市民参加型のコンテンツになります。（本日の）最後でもご案内いたします。

ご覧いただきたいポイントは、前回と変わらず（ですが）、①対象読者である、幅広い世代が関心をもって読みやすい文章や表現になっているか、②文章の切り口や表現に、市民として違和感を感じないか、③「もうひと工夫こういう言葉、表現」にしたかどうかといったアイデアをいただけますと幸いです。

本日お手元の配布資料や、メールで事前にお送りした資料については、実物大ではございません。今回もこの会場に2セット、実物大の紙面をご用意しておりますので、順次回覧して、ご覧いただければと思います。

それでは、具体的な内容に入ります。

最初は「めくって楽しむ！川崎市の移り変わり」です。こちらは巻頭の企画になります。編集側（の考え）としましては、「ここで本をめくる楽しみ、めくったらどうなるか」という楽しみを見つけてほしい意図があります。以前は、フィルムを使った透

明な紙面をめくる仕掛けをご提案し、検討してまいりました。

ただ、この懇談会の中でも、「(今後) 100 年もつ本を」という(趣旨の)ご意見をいただいたり、小学生の生徒さんが手にしたりすることも考慮しますと、紙の素材で制作する方が、丈夫さや、長持ちという条件も担保しやすいです。そこで、紙の素材だけで(作り)、「めくって楽しむ」というコンセプトはそのままにするにはどうしたら良いかと考え、ページの一部を切り欠きにして、次のページが先に見える状態で、過去と現在の絵を見比べながら、パラパラ(めくることが)できるのはどうかというアイデアで進めております。

次は、「市民が考えた! 川崎【激狭】テーマ史」になります。こちらのパートは、令和 6 年度の市民に参加いただいたワークショップで、どのような川崎市のテーマであつたら読んでみたいか、市民ならではのテーマを考えていただき、アイデアを形にしたパートになっております。こちらも、複数のテーマがありますが、お手元には「工場夜景の歴史」を取り上げたページをご提示しました。

続いて、巻末に近づきますが、「数字で振り返る川崎の 100 年」になります。こちらは、人口や、世帯数など様々な数字の 100 年の変化を追う、というコンテンツになっております。次の見開きには、ゴミの量ですとか、生活にまつわる数字、安全にまつわる数字などもあります。今回、規模を表す数字の見開きページとしてご提示しております。

最後に、「川崎の年表」のパートになります。年表のパートは 30 ページ以上で構成されているのですが、その中から 2 つの見開き、4 ページ分をご提示しました。最初の見開きは、川崎市の誕生が掲載されているページになります。例えば、初代市長の肖像や、歴代市長の名前など、テーマ史などのページでは取り上げづらいため、こちらの年表を通じて見ていただけるようにいたしました。できるだけ川崎の出来事と国内の出来事を併記して、日本ではどんなことがあったのか、その頃、川崎はどうだったということを比べられる工夫も施しています。あと、ご覧いただきますと、参照ページがところどころにありまして、例えば、最初の有吉(忠一)さんの堤防のところだと、多摩川のページに詳しい説明があるので、興味があれば、そちらのページを見に行ってもらえるよう案内する仕掛けとなっております。

もう一つの見開きの方は、より現代に近づいたページになっております。現代に近づいたページには、自分史と家族史を書いてみようというメモ欄を設けており、ご家族の誕生日などを記入していただきたいと思います。以上が各紙面の内容の説明になります。

事務局（片岡）

ありがとうございます。ちなみに紙面見本はまだお手元に配られていないのでしょうか。

事務局（浅井）

「めくって分かる」の内容が含まれる見本は2セットです。（もう一方の）こちらは切り欠きが入っていないのですが、本全体がどうなっているかを見ていただければ（と思います）。

人数分のご用意がないため恐縮ですが、（順番に）ご覧いただければと思います。

（次第一３） 紙面見本について意見交換(2)

事務局（片岡）

それでは、早速進めてまいります。

先ほど浅井からご説明をさせていただきましたとおり、本日はこちらの4つ（のコンテンツ）についてです。

「めくって楽しむ！川崎市の移り変わり」と、「市民が考えた！川崎【激狭】テーマ史」、「数字で振り返る川崎の100年 データが示す川崎の変化」と、そして最後に、「川崎の年表」です。前回と同様にカテゴリーに分けまして、Aは、対象読者である幅広い世代が関心をもって読みやすい文章や表現になっているかどうか。Bは、文章の切り口や表現に、市民として違和感を感じるところがないか。Cは、「もうひと工夫こういう言葉、表現」というところのアイデアがございましたら。という3つのカテゴリーでお話を伺ってまいりたいと思います。

前回と同様に、指名はせずに、フリーディスカッションの形式で進めていければと思いますので、早速、ご意見を賜ってまいりたいと思います。

（竹内委員の挙手を受けて）それでは、竹内さん、お願いいたします。

竹内委員

「激狭テーマ史」の工場夜景の写真（について）ですが、まず、このコンテンツは（市民だけでなく）市外の人も興味を持たれるものかと思います。

この写真は、実は非常に有名な写真で、工場夜景の中でも特にこちらは人気があるところです。ですので、よく見かける写真です。

（それ以外でも夜景のきれいな場所は）千鳥町や、浮島町など、いくつかあります。その他に川崎マリエンには展望台があるのですが、そこから見える景色もおすすりめスポットです。（夜景を）見たことがない人に（紹介するために）、そういう（場

所)をいくつか載せていただくと、これももちろん載せて(もらい)、いっぱい「良いところがあるのだな」というのが分かってもらえると思います。ぜひ検討していただきたいと思いました。

事務局(浅井)

ありがとうございます。

事務局(片岡)

ちなみに、渡部さん、この写真をピックアップした理由はありますか。

事務局(渡部)

そうですね。一目見て川崎の工場夜景だな、というところを選んだのですが、(竹内さんがおっしゃる)ようなご意見はあるだろうなと(思いながら、お話しを)伺いました。

事務局(片岡)

アイキャッチとして導入はこれで、いわゆるこれか、と思いつつ、そんなところもあるのだな、という広げ方は(どうでしょうか)。

事務局(渡部)

共感していただけるということなのか、それともやはり新鮮さを求めるのか。そこはいろいろと考えさせてください。

事務局(片岡)

ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。

にしにし家委員

率直に思ったことですが、「めくってわかる」の(切り欠きページの)サイズが違うというのは触ってみて、とても良いと思いました。やはり普通のページと違うことで、見本でも触った時にめくりやすいなと思いましたし、めくりたくなるなと思ったので、やはりタイトル通りになっていて良いと思いました。

分かりやすさという点で、「川崎の工場夜景はこうして生まれた」のページは、私的に写真はとても良いなと思っています。

あと、年表の中で、私的には、ボランティアガイドや、バスツアーガイドなどが始まった2010年というのは、もう少し強調しても良いのではと思いました。より市民に寄り添った場所なのかなというところ。見た感じ、良いなと思いました。

あと、「データが示す川崎の変化 川崎で振り返る川崎の100年」のページですが、これは実物といいますか、こちらの紙資料の方は見やすかったので良かったですが、スマホやPDFで見た時に、とても色合いが見づらいと思いました。(印刷され

た冊子で見て）この色でしたら大丈夫かと思いました。

情報量が多いため見づらくなりやすいのでは、という印象を受けました。ですが、テーマ的に、政令指定都市のランキングや、区ごとの比較などは、内容的に見やすければ、非常に見たい内容だと思います。

あと、年表で言いますと、川崎市が誕生したところも、もう少し強調したら見やすいのではと思いました。以上です。

事務局（片岡）

ありがとうございます。ちなみに、この色味のところですが、デジタル（媒体）と紙面とで、見え方が違う（ということでしょうか）。

事務局（浅井）

こちら（スクリーンに投影した見え方）は（想定と）全然違います。

事務局（片岡）

にしにし家さんは、メールで送られてきた PDF ファイルを手元の携帯で見ていただいたということでしょうか。

にしにし家委員

そうです。

事務局（片岡）

そうしますと、ユニバーサルカラーの意味合いで（見づらい）ということでしょうか。

事務局（浅井）

（ユニバーサルカラー）といいますか、その画像の変換の問題もあると思いますので、私たちが思っている色味に一番近いのは、こちらの紙面に印刷したものになります。

事務局（片岡）

なるほど。そこはもしかしたら、また何かしら画像で見た場合のカラーリングなどを、今後、検討する（ということですね）。

事務局（浅井）

はい。その想定です。

事務局（片岡）

なるほど。実は私も色弱なのです。意外と見えません。デジタルの方が多かったりします。

事務局（浅井）

そうですね。こちらの配布資料はスクリーンショットを介していますので、色味は少し荒れていると思います。

紙面見本は（原稿の）PDF から出力しています。今後、電子ブックを作るときもPDF からの作成になりますので、印刷物に近い色が画面で見られるようになります。

事務局（片岡）

ありがとうございます。他はいかがでしょうか。

望月委員

最初の（感想としまして）、「めくって楽しむ！川崎市の移り変わり」ですが、地図の移り変わりで、確かにページがめくりやすく、分かりやすくて良いですが。

こちらのリードの部分は、そもそも市内の7区を全部設けるのでしょうか。

事務局（浅井）

いえ、3 テーマになっております。（本日の配布資料では）本日、お見せしていないページは、鉄道網の広がりを見開きと、臨海部の変遷です。あと、お手元にあります武蔵小杉によりフォーカスした駅前の移り変わりという3つのテーマになっております。

望月委員

分かりました。それぞれページの冒頭の「めくってわかる」の下のリード文が、「川崎臨海部の移り変わり」と、「土地利用の移り変わり」という形で変わっていましたので、（テーマ名の付け方が）揃っていた方が分かりやすいのでは、という気がしたためお尋ねしました。

ただ、この「土地利用の移り変わり」と言ってしまうのは非常に難しいのではと思うのです。（地図の）見た目で、ここは家です、田んぼです、当然畑もあったりします。そのような意味で厳密な土地利用と言ってしまうのは厳しいのかと思います。全体を通してみると「景観の移り変わり」という言い方になってくるのではと思いました。

事務局（浅井）

タイトルのつけ方を変えた方が良いでしょうか。

望月委員

もしかしたら、そこは通しで同じタイトルにしておき、左端の白い部分に、それぞれの地域の移り変わりのこと等が色々書かれていますので、そちらの方が理解しやすいのでは、という気がしました。

あと、「川崎の年表」ですが、本日お示していただいているのは大正時代以降のところですが、そもそも（とびらページで）「古代から近い未来まで、川崎の歴史を国内のできごとと比較しながら振り返ります。」ということで、当然ながら奈良時代や、平安時代の出来事が（この本の中で触れられていますよね）。

事務局（浅井）

本当は縄文時代から（触れられています）。

望月委員

縄文から始まっている年表が、この「(川崎の年表)」の（欄外の）ところに、「まちづくりに関するできごと」や、「スポーツ・文化に関するできごと」など、カテゴリーがマークで示されているのですが、近代以降ですと比較的このカテゴリーで収めやすいと思いますが、近代より前になりますと、このマークをどのように用いるのが少し気になることがあります。

事務局（浅井）

分かりました。ありがとうございます。

望月委員

なかなかこの4つのカテゴリーには入ってこないのではという気がしました。

事務局（片岡）

ありがとうございます。この言葉としての表現は、見る側にとっても色々な見え方があるのではと思います。ぜひ、その観点も色々ご検討いただけると、ありがたいと思います。よろしくお願いいたします。

鈴木（勇）委員

今「めくって楽しむ！川崎市の移り変わり」について（望月さんから）お話があったのですが、こちら（のコンテンツは）非常に良いと思うのです。このような形で、ビジュアルで、「昔はこうだったのですよ、それで今はこうなりました」というのは、非常に分かりやすいと思うのです。

ただ、先ほど望月さんが言われたように、土地利用ですとか、これがこうだったという景観まで落とすとしても難しいところがあります。見本で描かれています武蔵小杉のあたりは、にわかに分からないですが、臨海部は現在に比べると、大正末期から昭和初期のイメージ図ですが、それでもかなり解像度が粗いという印象を受けます。

当時、あったはずのものがなかったり、なかったはずのものがあったりするのが見受けられます。ですので、見る人は「この辺りは昔こうだったのだ。自分たちの住んでいるところが（こうだった）」という場面が出てくるかもしれないという気がしま

した。

事務局（片岡）

「粗い」とおっしゃるのは、単純に画質として粗いということですか。

鈴木（勇）委員

いえ、そうではなく、具体的には、例えばここは（本来）橋がかかっているのに、かかっていない。ですとか、あったはずの鉄道が書かれていない。工場がどうだなど、そういうことです。その辺りをしっかり資料的に確定していくのは難しいと思います。完璧を求めてはいけないと思うのですが、とは言いましても、あったはずのものがなかったり、逆に、無かったはずのものがあったりするのは、まずいと思います。

事務局（片岡）

その辺りのファクトチェックはどのようにされていますか。

事務局（浅井）

元になっているものは、その当時の古地図であったり、残っている写真を見たりするのですが、範囲全体の写真はやはり取りづらいです。特に昔の（地図の）方は、「実際とは違うことがあるかもしれません」という但し書きがあっても然るべきかもしれません。

現在については、市側でも確認いただいておりますが、道路の立体交差の状態や、暗渠になっている、なっていないですとか、そういうところはできるだけ事実即して記載していこうとしております。

事務局（片岡）

完成したら、（気付かれることが）ありそうですね。

事務局（浅井）

そうです。（先ほど）完璧を求めてはいけない、とおっしゃっていただいたのが本当に嬉しいです。

（このコンテンツは）厳密な方向に行こうとすると、企画自体をやめてしまうことになると思います。そうなるよりも、こちら（制作側）としては、市民の方にめくって楽しんでいただく、というイメージを持っていただきたいというところを大切に（制作を）始めていますので、ぜひ（制作を進めて）いきたいです。

事務局（片岡）

ありがとうございます。

鈴木（ひ）委員

「めくって楽しむ！川崎市の移り変わり」の資料は、PDFで武蔵小杉のページだけでしたよね。それを踏まえてですが、このめくる仕組みは本当に面白い、すごいなと思いました。

最初に見た時に、「これはどこ（の地図）なんだろう」と思ったので、タイトルのところを思い切って「〇〇付近」という記載にしてしまうのもありかなと思いました。あと、（左上に書いてはいるのですが）PDFで最初にパッと見たときに、「これは、いつのどこなのだろう」というのが分からなかったのが、この時代の表記のころは見づらいかと思います。

今の武蔵小杉が、なんだかのび太くんの住んでいる町のように見えまして、あまり現代ではない気がして写真にした方が良いのでは、と少し思いました。

事務局（浅井）

写真ですと、グレー（一色に見えてしまう）なのです。屋根がカラフルですので（漫画やアニメのような印象に感じるの）かもしれません。

鈴木（ひ）委員

なるほど。

少し、その「あいだ」も見てみたいなと思いました。大昔と今と、少し前と（の比較です）。

事務局（片岡）

時期的な「間」ですね。

鈴木（ひ）委員

武蔵小杉ですが、ページの順番が逆の方が面白いかもしれません。現在の（画像）を先にして、それに対して「こんな雰囲気でした」と（昔の画像を示す）。

ここだけ逆にすると（全体が）成り立つのか分からないのですが。ただ、「昔」を見て、「今」を見て、「ふーん」ってなるより、驚きがあると思います。

事務局（浅井）

先に昔の田んぼを見ても、「どこか分からない」と思ってしまうのでしょうか。

嶋田委員

すみません。横からですが、そうすると全部そうしても良いかもしれません。

鈴木（ひ）委員

全部のページを、そうしてしまうのもありでしょうか。

事務局（片岡）

「今」を先に見て、後に「昔」を見る。

事務局（浅井）

確かに。最初の（市域の変遷を示す）緑色の地図のページも、今の川崎市の縦長の形は皆さんご存知ですので、「今はこうですが、昔はこうでした」という見せ方もありますね。

これも（制作している中で）色々議論があったところですが。市域の拡大が川崎市の発展であるのか？という議論もありつつ、ただ、やはり「最初があって、後に段々と大きくなった」というのが良いことと捉えています。そのため、「昔」「今」「昔」「今」の順にしていました。

ただ、そもそも市域の拡大や発展をそのままストレートに表しているか、というのは常に問いとしてありまして、そういう観点も踏まえますと、時間を「今」から「昔」という順番もあり得るかもしれません。

事務局（片岡）

そうですがページごとに、それぞれ「激狭テーマ史」や、「川崎の年表」、「データが示す川崎の変化」など、それぞれのコンテンツが見ている人に何を伝えたいのかは、ページによって違う気もします。ですので、浅井さんがおっしゃられていたその市域の拡大という話ですと、それはファクトベースとして伝えること（ではないでしょうか）。

私も見ていて思ったのですが、この100年というのはこんなにも時間の流れが凄いのだなということを実感しました。今はそうだと思いながら、昔を見た時に、「昔は、ここで走り回っていたのだな」とノスタルジックな気持ちにさせます。

（その順序）が逆というのはとても面白いのかなと、非常に思いました。

鈴木（ひ）委員

100年というより、もっと、数百年前の印象を受けます。

事務局（片岡）

そうですね。同じく思いました。

事務局（浅井）

100年前ですので電車は走っています。

事務局（片岡）

なるほど。個人的な感想ですが、この（風景の）中に電車というものが走っていて、きっと短パンとタンクトップで走り回る子たちが一杯いた時代なのではと思います

す。時代はそこまで（大きく）変わるのだなと、非常にノスタルジックな気分になると思いました。

事務局（浅井）

渡部さん、こちらは書き加え要素は出てきますか？

事務局（渡部）

そうですね。できる限り現代と、昔の（地図の）方はその当時の人物も少し描いてみたいなと思っています。

嶋田委員

服装も違いますよね。

事務局（片岡）

そうですね。どうやって表現するか。例えば、あの時にここにいた子とか。

事務局（渡部）

そうですね。本当に小さいですが、（要素を追加しようと検討します）。

鈴木（ひ）委員

余白に写真だけでも並べているのも面白いでしょうか。

嶋田委員

一言よいでしょうか。昔の絵と、こちらの（現代の絵）ですが、リアルに見られてしまうと困りますので、最初から「分かりやすいように簡略化しています」や「イメージ図です」といった但し書きを入れておいた方が（良いかと思います）。雰囲気伝えるというところでしょうから。

少し話がずれてしまうのですが、今ミュージカルのための取材をしまして、60年前のことを調べようと思い、当時を知っている人、年配の方にお話を聞きに行っているのですが、80歳、90歳の方でして、当時のことを結構忘れていたり、（話を聞いていると）時代を行ったり来たりしていて、意外と「みんな60年前（の記憶）はあやふやなのだな」ということにびっくりしています。（当初は）細かくリアルを追いかけないといけないのかなと思っていたのですが、「そうでもないんだ」と感じているところです。ですので、100年前は尚更、歴史のことを非常に詳しい方ではない限り気付かないのではないかと思います。

事務局（片岡）

ありがとうございます。ここで言うと、見る側が、「100年前からこんなに変わったのだな」と気づいて、より深く調べてみたいというきっかけにしていければ良いのではと思いました。ぜひ、渡部さんも表現等も含めて、より（読者の）心を引けるよう

なものにしていいただければと思います。

嶋田委員

（昔は）結構、沼ですとか池があったみたいです。

事務局（片岡）

ありがとうございます。今、住んでいる側としては、「俺の家って、ここは沼だったのか」（と思いますね）。他はいかがでしょうか。

大城委員

とても細かい話ですが、工場夜景のところで、全体の表現は好きなのですが、この見出しの文章の中に、「環境問題を乗り越えた」という表現が出てきています。ふと気になって、まだ誰も環境問題は克服してない気がします。「公害」と書き換えるのが良いでしょうか。川崎ではやはり公害を乗り越えて、卒業したというのは最初に言いたいことですので、その表現に突っ込まれると嫌だな、もったいないなと思いますので、ここは見直したいなと思います。気になったのは本当にこれぐらいでした。

事務局（片岡）

確かに環境問題は誰も乗り越えていないですよ。

嶋田委員

でも、当時の子どもたちは、60年代、70年代の子どもが川崎の絵を描くと空が灰色だった。水色を塗らないで灰色で塗っていたという話を聞きました。

事務局（片岡）

最近の「月曜から夜更かし（編集注 テレビの放映されるバラエティー番組のこと）」で、別の地域のおじいさんが、「川崎に住む、住まない」といった話をしていた時に、「いや、あんなところに住んだら洗濯物が灰色になるでしょ」といったことを話していて。未だに（そんなことを）言う人がいるのだな、という印象（をもちました）。逆に（自分は）そのイメージを持ってない世代です。

嶋田委員

そうなのです。（私も川崎市に）引っ越ししてくる時、ちょっと怖かった（記憶があります）。夏に引っ越してきた初日に町中のスピーカーから「光化学スモック発生中」という放送を聞いて震え上がったのです。

事務局（片岡）

全国でやっていますよ。

嶋田委員

そうですか。いや、（川崎に来た日に）初めて聞いたのですよ。

事務局（片岡）

確かにここの表現は人によっては突っ込みやすい表現なのではと思います。

ありがとうございます。非常に素晴らしい意見です。

にしにし家委員

ちょっとした内容ですが、この「めくって楽しむ！川崎市の移り変わり」の「土地利用の移り変わり」のページが、こちら（実物大の資料）の方がもらった資料（事前の PDF 提供資料）より少し拡大されていまして、圧迫感があって見づらいと思いました。

こちらの方（事前に送付した PDF ファイルの資料）は全体像が見えるため見やすい気がします。少し切れているのです。かすかに違うのですが、印象としてはこちらの方（実物大資料）は圧迫感が感じられました。

事務局（片岡）

ありがとうございます。その辺のレイアウトに関することも是非（ご意見を）いただきたいと思います。承知いたしました。いかがでしょうか。阿久津さん、お願いします。

阿久津委員

「めくって楽しむ！川崎市の移り変わり」のページで、先ほど「田んぼの（ページの）方を後（にする）のも良いのではないか」という話がありまして、「なるほどな」と思ったのですが。私は最初に田んぼ（のページ）を見て、「これはなんだろう？」と思ってから（ページを）めくって、「こういうことか」という感じで、めくるという動作を自然に行えたので、このままでも良いのかなと（思いつつ）、でも（昔のページは後ろにあった方がというアイデアを）聞くとそちらも良いなと思いました。とても難しいところだと思います。

この「めくってわかる（めくって楽しむ）」というのは、面白さや、比べてほしいという（意図）があると思うので、この「めくってわかる（めくって楽しむ）」という文字そのものをもう少し大きくすると、良いのかなと思います。

事務局（片岡）

大きくしたら良いというのは（どちらでしょうか）。

阿久津委員

ここ（一番上のタイトル）の「めくってわかる（という文字）」をもう少し大きくすること（意図）です。

事務局（浅井）

実はまだ「めくってわかる」にするか、「めくって楽しむ」にするか、編集で検討中です。

阿久津委員

色を変える（対応）でも良いですが、（今は）線があっても（下の内容に）馴染むのではと思います。色を変えるのでも良いのではと思います。

事務局（片岡）

確かにそうですね。今、お話に上がっていたのは、どちらが正解という話題ではないと思います。めくってもらって、どんなことを得てほしいのかとか、どんな気分になってほしいのか。この「めくってわかる」の文字を大きくすることで、このページでは、「どんな体験をしてもらいたい」という意図がより伝わると良いのではと感じました。このページではこんなことを伝えたい、といった一言があると面白いのではと思います。ありがとうございます。

落合委員

今、思っていることですが、一つ目は、年表のところは国内の出来事と川崎市の出来事が直接結び付かない話題になっていると思います。この時期に「こうだったのだな」というので分かる部分があれば、それはそれで良いのですが。

もう少し川崎の出来事という（記載）があって、例えば「川崎球場ができた」ということ（話題）であれば、これ（前ページ）にも出ていましたが、「明治神宮の神宮球場ができた」ですとか、そのように関連付けることで、国内の出来事があって、川崎でもこんなことがあった、という感じになると良いと思いました。

あと、一つひとつよく見ていると面白い内容で凄いと思います。魅力的なのですが、結構、（全体を）通して見る人がいるというのは、可能性としてあまりないのではという感じがします。読者はどのような感じで読んでいくのか、イメージしているのか気になります。「それでは、今日は何ページを見てみようか」という感じになるのか。恐らくそのような（見方をする読者は）あまりいないような気がします。

（この本は）携帯用としては結構重たそうです。どのような感じであるかは気になったところです。以上です。

事務局（浅井）

ありがとうございます。こちらのご指摘も当初の企画の際に、全世代の読書離れがあるのは承知しておりましたので、「最初から読まないといけな敷居の高い本にはしない。どこか自分の興味があるところを見つけてもらい、まずそのページを読んで

もらう。次に手に取った時に、気が向いたら、他のページを読んでもらう」という意図で、オムニバス形式の目次構成になっています。確かに本書を頭から読むと大変です。

事務局（片岡）

目次はどういう表記になっていますか。

事務局（浅井）

目次は、この最初の構成のところに、それぞれのコンテンツが入っているような表記になっています。

落合委員

索引が必要と感じていますか。

事務局（浅井）

今のところ索引は想定しておりません。

事務局（片岡）

先ほどの阿久津さんのご意見とリンクするのでは、と思ったのですが。

読者がこの本1冊を唐突に渡された時、どこが自分に合っているのか。例えば、軽く川崎のことを知りたい人なら「激狭テーマ史」。深く情報を知りたい人なら「川崎の年表」や「規模を表す数字」。単純に楽しみたい人なら「めくって楽しむ！川崎市の移り変わり」。というように、その人のカスタマージャーニー（編集注 顧客が商品やサービスを認知し、興味を持ち、検討し、購入に至るまでの一連のプロセスのこと）とまで言わないですが、「どのような気持ちになるのだろうか」という視点がプラスされていても（良いのではと思います）。

今のお話ですと、いきなり1冊を読まずとも、「ここだけ簡単に読みましょう」という（ものが設定されていると）読者の気分に合わせられるのではと思いました。

事務局（浅井）

読書体験のライドプランのようなものでしょうか。

例えば、テーマパークでいえば、「ファミリーの1日の過ごし方プラン」や「カップル向けの過ごし方プラン」などが（複数種類）用意しており、「午前中はここに行って、昼はここで食べて、夕方はここに行けば良い1日が過ごせます」といったものがあります。

その書籍版で、「〇〇に興味がある人はここ、ここ、ここを読むとおすすめです」などを示すのは（いかがでしょうか）。今、お話を聞きながらジャストアイデアでそのように思いました。

事務局（片岡）

その人の希望する体験や、希望に合わせてコンテンツを提供するというのは、あっても良いのではと思います。ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

竹内委員

「川崎の年表」のところですが、先ほど川崎の出来事と国内の出来事の関連付けができていないというご意見がありました。そのような意味では、自分に引きつけて考えると、時代が蘇ってくると思います。

例えば、1979年の国内の記載欄が今は空欄になっているのですが、この年に某社の「ウォークマン」が発売され、この出来事は当時の若者にとっては画期的なことで、そのように書いてあると「そうだ、あの頃か！」というのがすぐに思い出せます。同様に1983年はN社のファミコンが発売されている年で、そのようなことを書いていただけると良いのではと思いました。

事務局（片岡）

ありがとうございます。確かに、先ほどの落合さんのお話にありました。

お聞きしていて、その順序をどちらにするのかが重要なことだと思いました。つまり、川崎の出来事から国内の出来事につなげるのか、国内の出来事から川崎の出来事につなげるのかです。

皆がみな、川崎（に詳しいわけでは）ないわけですから。世の中のトレンドは、やはり国内のトレンドです。まさにおっしゃられたウォークマンやファミコンであって、そこから「その時、川崎では何が起こっていたのだろう」と見ていきます。

世界史でも確かにそうだと思います。ペリー来航を習った時に、その頃世界はどのようなになっていたか、という話はあるのかと思いますので。

その順序も、しっかり国内の出来事を押さえていたら面白いのかと思いました。

あと、自分が生まれた年はあってほしいです。

事務局（浅井）

年表の記載は、できるだけ「真っ白な年（何も事項がない年）」は無いように、と心がけています。

事務局（片岡）

そうですね。全部が全部あるわけではないでしょうが、自分が生まれた時、川崎の出来事（として、何があったのかは気になります）。ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

鈴木（ひ）委員

国内の出来事の欄ですが、川崎を目立たせたいのであれば国内側は図がなくても良いかなと思いました。

むしろ情報を多くする方が良いのではないのでしょうか。個人的な意見ですが、年に一つは何かしらの項目や内容が（あれば良いと思います）。あと、生活感があるものの方が話題になりそうですので、例えば流行語大賞を載せるなど、そのような（発想）もありかと思います。あまり写真を入れてしまうと、川崎市側の写真に目がいかない。目線をどっちに合わせたら良いのだろうとなってしまう気がします。

事務局（片岡）

確かにそうですね。

事務局（浅井）

今、イラストには「アタリ」で入っているのですが、「こちらのトーンを抑え目にしようか」という話は編集者と進めており、ここで写真の方がより際立つようにできるかなと思います。

事務局（片岡）

流行語大賞は、いつから始まったのですかね。

事務局（浅井）

（調べると）1984年だそうです。

事務局（片岡）

でも、言葉というのはとても大事ですよ。「チョベリバ」（編集注：「超ベリー・バッド(very bad)」の略。1996年の新語・流行語大賞のベストテンに入賞した。）などは、聞くだけで非常に流行した時代を思い出しますよね。ありがとうございます。ただ年表を見るというよりは、面白さも増えますね。

望月委員

よろしいですか。細かいことですが、「数字で振り返る100年」のところです。

一つは人口重心を記載しているところで、宮前区だけがピンポイントで番地まで記載されているのですが、ここまでの記載は必要ないのではないのでしょうか。また、実際に住んでいる人もいますでしょう。

事務局（浅井）

（2020年の人口重心は）前のところ（1990年）が「野川本町」まで一緒だったからです。

望月委員

そうですね。多分そうだと思ったのですが、少しピンポイント過ぎますので、これを見た人がここへ行ってしまうのではないか気になります。

それともう一つは、「年齢3区分人口の推移」なのですが、このような数値のデータは、本当に根拠とするところが毎年出てくれば良いですが、なかなかそうではないので。

結局この数値も、その横棒グラフになっているのは、2024年度のところで、生産年齢人口「15～64歳」の68パーセントで、その下の表になっているのは67.1パーセントということで、0.9は合っていないです。そうしますと、2024年というのは令和6年で、こちらの方が、出典が「令和5年版大都市データランキング」になっています。そこで差が出てしまうのかと（思います）。

元号と西暦はバラバラに入っていると、そのたびに「これは何年」という形で（頭の中で）計算し直さなければいけないです。今は令和8年ですので、令和6年ぐらひはすぐに引き算をできるのですが。これがどんどん遡っていくと、「2024年は、令和何年だったかな？」と、計算するだけでも結構大変ですので、できれば、データ上は揃えて記載した方が良いかと思います。

事務局（浅井）

紐解きますと、書籍内のデータとしては全て西暦で揃えるということにしています。ただ、こちらの出典は本の名称になりますので、名前を勝手に書き換えるわけにはいかず、令和5年という記載になっています。

望月委員

そうしましたら、その「大都市別15～65歳人口割合（%）」のところに「2023」と入れるなど（の対応）もできます。少しでもそうした工夫があると比較がしやすいのではないのでしょうか。

事務局（浅井）

なんとか今回の国勢調査は入れる予定でして。まだデータ待ちのところがあります。

事務局（片岡）

ありがとうございます。こちらは難しいですね。

望月委員

難しいです。毎年、統計を出してくれていれば楽なのですが、データの種類によって異なってきますので。

事務局（片岡）

ありがとうございます。先程、手をあげられた羽賀さん。よろしくお願いいたします。
す。

羽賀委員

二点あります。一つは、「川崎の年表」の方で、「何ページにあります」という表記のところ。細かいですが、これがどのテーマの、例えば、「激狭テーマ史のここです」というように、どのトピックなのかも書いてあると、「この話題は激狭にも載っているなら読みたい」などになるかと思います。細かいですが、ページ番号の（横にトピックが）欲しいなと思います。

もう一つは、「めくって楽しむ！川崎市の移り変わり」です。私もとても面白くて良いと思ったのですが、私はめくった時に、あまりその両端の文章に目がいけないです。画像を広げてしまうなど両端の記載はいらなくなるかもしれないと思いました。

むしろ、上の方に「これを見て、気づいたことを書いてみよう」欄ですとか、余白があっても良いかなと思い、この絵に情報がありますので、端はなくして良いかと。あと、この本は分厚くなりそうですので、真ん中が見にくくならないか気になります。

事務局（浅井）

そちらは開きやすい製本方法を採用予定でございます。

羽賀委員

ありがとうございます。とても楽しみです。以上です。

事務局（片岡）

ありがとうございます。ちなみに、両端に「自分の思い」を書く欄を用意したら、というご意見でしょうか？

事務局（浅井）

「気づいたこと」を書く欄ですね。

羽賀委員

両端とか、右上のところでも良いかもしれませんが、この絵から読み取れることは結構ありそうですので、「変わったところを見つけたら書いてみよう」といった欄を設けても良いのではないかと少し思いました。

事務局（片岡）

確かに。ありがとうございます。ちなみに。（そのような欄が）あったら書きますか。

羽賀委員

どうでしょう。そうですね。書きます。

事務局（浅井）

「これはどこでしょう」というような、探したくなるようなもの（があるのはいかがでしょうか）。

事務局（片岡）

確かにそれは面白いですね。「今のアイコンとなっている場所が、過去はどこだったのでしょうか」ということですよね。

事務局（浅井）

そういう問いかけだけを残していく案でしょうか。

嶋田委員

今のご意見はとても良いと思いました。

私のランニングコースは二ヶ領用水なのですが、ちょうどここは走っているところでして、「これは、あのお店の横あたりかな？」といった（ことを思いました）。

土地勘がある人の場合、やはり相当細かく見ると思うのです。そうすると、少し（興味を）くすぐる要素が入っていたら、「そうそう！」といった共感が呼べると思います。無茶ぶりかもしれないですが。

（地図に描かれている）辺りに住んでいる人は、かなり熱心に見ると思います。

「自分の家はどの辺りかな」（と探したくなる方もいるのではないのでしょうか）。

事務局（片岡）

確かに、見ますよ。

事務局（浅井）

加えて編集者と話していたときに（出てきたアイデアとしては）、この武蔵小杉の駅前の広場のところに、イベントの時にしか出ないものですか、実は何月何日かが分かるものなど（を書いてみては）。

屋上の広いところに文字を書いてみる案や、（画像に）電車を走らせた、といったアイデアもありました。

事務局（片岡）

確かに、このページを単純にめくるだけでも、楽しみ方は色々あると思うのですが。ここのページに長く滞留させて、せっかくめくることで読者を楽しませるコンテンツというのは、滞在時間を長くするだけではないですが、何か（喜ばせる要素が）あってもすごく面白いですね。

嶋田委員

絶対見ますよ。

阿久津委員

昔の絵の方は、ほとんど田んぼが書かれていますので、電車の違いが分かるような記載があれば、面白いかと思います。

嶋田委員

電車を入れても面白いでしょうね。

事務局（片岡）

もともと単線なのですか？

鈴木（勇）委員

東横線は、多分最初から複線だと思います。南武鉄道は、単線だと思います。

嶋田委員

この時代ですと、南武線は砂利を乗せているのですか？

鈴木（勇）委員

砂利とセメントが多いはずです。

嶋田委員

貨物ですよ。

鈴木（勇）委員

セメントは石灰石です。

嶋田委員

これは、電車が走っていると面白いかもしれません。

阿久津委員

そういうのは書いたら面白いですよ。

嶋田委員

（この頃は）もう電車なのですか。SL（蒸気機関車）ですか。

鈴木（勇）委員

電車も走っていたと思います。

多分、汽車と人（が載る列車）は電車だったと思います。

嶋田委員

東横線は電車で、南武鉄道は汽車とか、そういうことなのでしょうか。

鈴木（勇）委員

南部鉄道も人は多分、電車に乗っていたと思います。

嶋田委員

南武鉄道は、当時から人も乗っていたのですか。

鈴木（勇）委員

一応、乗っています。ただこの時点ですと、まだ工事中で走っていないです。

阿久津委員

走っていたら面白そうですね。

事務局（片岡）

（この画像が表している期間が）長いのですね。（「1923 年～1927 年」の）4 年の間（の地図を参考したものです）。

阿久津委員

（先ほども発言しましたが）やはり両サイドに文字があるのは非常に目線が散ってしまうので、なくすか、片方だけに寄せるか、ずらすと見やすいのかと思います。

事務局（片岡）

ちなみに（文字を）片方だけに寄せて、例えば右側のところに先ほど話した参加型コンテンツのようなことが書いてあると、それは目が散らないですか。

阿久津委員

散らないと思います。やはり両サイドに配置すると、目の動きが忙しいです。

そして、縦書きですので（読みづらいと思います）。

羽賀委員

そこに「めくってみて」と書いてあると良いでしょうか。

阿久津委員

それぐらいの表記でしたら良いかと思います。しっかり読みたいのに読めないし、真ん中も見づらいし、そうすると目が忙しいです。

事務局（片岡）

こちらはいろいろな工夫をすることで、人気のあるページになりそうですね。

阿久津委員

じっと見ちゃいます。（絵のなかに）人を入れるかもしれない、という話しも非常に良いと思いました。

事務局（片岡）

そうですね。

鈴木（勇）委員

そうしますと、少し繰り返しになりますが、あまり目立った間違えが書かれてると

まずいですね。

事務局（片岡）

確かにそうですね。難しいですね。深くすれば深くするほど粗が出ます。

鈴木（勇）委員

ただ、やはり凄く見ると思います。特に、この武蔵小杉の画像くらいの縮尺ですと。

落合委員

本当に当時こんなに家が少なかったのですか。それは間違いないですか。

望月委員

このあたりには（家は）なかったと思いますよ。大体は中原街道沿いに建ち並んでいる形です。

事務局（片岡）

家が二軒ぐらいしかないですね。

落合委員

駅の場所も、武蔵小杉の駅は違うところにあったのですかね。

事務局（片岡）

確かに、駅はどこですかね。

鈴木（勇）委員

その当時は、武蔵小杉の駅はないです。東横線は新丸子の駅です。後で、工業都市（駅）が出てくるのですが。

事務局（片岡）

鈴木勇一郎さんの動画解説があってほしいですね。

阿久津委員

書いていないところに興味が湧きますね。

鈴木（勇）委員

左ページの真ん中の辺りに大きな木がありますが、これはどこか（写真や地図等の資料）に書いているのですかね。

事務局（渡部）

一応、当時の地図を元にイラストに書き起こしているのですが。（ここまでの情報は確認しないと分かりません）。

事務局（片岡）

確かに、これは何かありそうですね。先ほども（開会前に）、渡部さんが鷺沼駅前のバスロータリーの樹木は何年も昔と一緒の場所にあると話していました。

事務局（渡部）

昭和 40 年代と現在とで、街路樹の位置が全く同じなのです。

鈴木（勇）委員

ジョギングでこの辺りを走っている方や、毎日通勤で通っている方も、やはり詳しく見るのではないかと思います。

阿久津委員

でも、この中で残っている木があるかもしれませんね。

事務局（片岡）

（それは）ロマンだと思います。

鈴木（勇）委員

武蔵小杉から日本医科大学の病院に行く途中に、少し道にはみ出す感じで大きい木がありました。桜の木だったかと思いますが、樹齢もそれなりあったので、いつから植わっているのかと思っていました。ただ、いつの間にか切られてしまっていました。

事務局（片岡）

このコンテンツは入れたら面白そうなアイデアはたくさんありそうですね。

鈴木（勇）委員

やり始めたらきりがありませんね。

事務局（片岡）

逆に言いますと、見始めたらきりないくらい面白いと思います。

鈴木（勇）委員

すごく面白いと思います。

事務局（片岡）

これを機に川崎だけではなく、様々な地域の歴史などを、特に子どもにとって調べるきっかけとなってくれと良いなと思いました。

事務局（浅井）

今ここで話題になっていましたが、スマホでも見られる「今昔マップ on the web」も参考情報としてよいと思います。

事務局（片岡）

ありがとうございます。先ほども話題に出ていましたが、ページによって「どのようなことを伝えるか」、「どのようなことをやってみると良い」等を上手に伝えたりすると、子どもだけでなく大人も楽しめるコンテンツになるのかと思います。他にいかがでしょうか。

中村委員

すみません。大きく何か、という意見は特にありません。二年前はどういう本ができるのかなと思っていましたが、あっという間に3年経ったと思っています。

1年生だった娘が、今週の火曜日に市内巡りに遠足して「川崎はこういうところ」という内容を勉強してきました。私は麻生区に住んでいるのですが、目的地は川崎マリエンと川崎大師でした。その間にある区はどうしたのかというと、バスの中から先生が（あっという間に通り過ぎるのですけど）麻生区はこういうところ、多摩区はこういうところ、宮前区はこういうところ、と説明するのだそうです。本当にあっという間に説明されるのですが、その中で各区の特徴を書かないといけない感じだったそうです。

その後、（バスから）降りた場所は、川崎マリエンと川崎大師だけだったそうです。麻生区に住んでいる者としては、見たことのない街を通り抜けて、（娘は）川崎大師にも行ったこともなかったので、初めて訪れたところを半日かけて、こんなに歴史が長いけれど、幸区と川崎区以外は、バスで飛ばされてしまう感じでした。ですので、各区の特徴を（この本に掲載して）もらえるだけでも嬉しいと思います。

今回は、川崎の歴史100年ですので「どのように変わった」というところがきっと楽しみですので、良いなと思いつつ、特に中原区の事例があって、ここから各区の事例が出ているのですが、この区の特徴が載っていると、1年生か3年生でも分かりやすいのかなと思いました。ぱっと見て、中原区の事例をもらって、子どもたちが何を感じるかというのはよく分かりません。

（うちの）子どもが「建物が多くて、人が多い」と書いてきたのは、遠足で先生が言ったのだろーと思います。ただ、武蔵小杉はそれだけではないと思うのですが、恐らく等々力などを通してないから、スポーツのことは説明を受けていなかったと推測します。ですので、各区の特徴が分かりやすいページがあると良いなと思いました。

私は、今見ているページは、全体的にとっても楽しいなと思っています。他の区を含めると、目次はどうなるのかな、各区はどうやって取り上げられているのかなと思いました。というのは、麻生区は二ヶ領用水も多摩川も通っていないですし、最後にで

きた区ですので、これまでの二年半ぐらいの議論の中に、麻生区の話題がほとんどなくて、どういう風にこの本でうちの子どもが興味を持ってくれるページができるのか少し不安に思いました。

特に歴史の記載箇所も麻生区等は全然触れられてないですし、恐らくうちの子どもが二ヶ領用水や多摩川のことが書かれていても、理解が難しいと思います。住んでいる町に川がないので。もしまだページが残っているのであれば（麻生区等の記載を追記いただきたいですが）、難しいとは思っています。

歴史ですので良いのですが、うちの子がこの本を見て、自分の生活と重ねられるのかと思ったら、特にこの移り変わりとか、「武蔵小杉が分かるかな？」というのは感じました。

全体的に見て 100 年で大きく変わった川崎の歴史というところを「この本を先生が（市内巡り等で）うまく使ってくれたら良いな」と思っています。

ただ、市内巡りに行ってすごいと思ったのは、その 1 日で「何区が何番目に人口が多い」といった話題を（うちの子が）すぐ言えるようになっていたことです。「中原区が一番で、次は～」というような発言があり、そこはよく覚えていました。恐らく子どもというのは分かりやすい「自分のところは何番で、一番はここ」という情報はよく覚えるようです。それを数字等でもう少し分かりやすく、もう少しだけ現代に近いボリュームがあったら良いと思います。年表などは小学生が見て興味が湧くものは（現状）一個もないと思いますので、もう少しだけ小学生が興味の湧く、さっきのゲームのような、小学生がワクワクするような、今の子でもピンとくるようなキーワードを散りばめていただけると嬉しいです。

本当に市内巡りの時に飛ばされてしまった区の説明がこの本から、先生方で使える資料になると良いなと願っています。

事務局（片岡）

ありがとうございます。確かにそうですね。私もそうでしたけど、行動範囲は小学生の自転車で行ける範囲ですので、自分が住んでいる区でもう少しクローズアップできるところというのは、子ども目線ですと、あった方が良いのかなと思いました。

そのランキングという話がありましたが、この区はこれが一番といった、各区のランキングはありましたか？

事務局（浅井）

区ごとで「ここが一番」といったテーマを設けるといった切り方はしてないです。人口でのランキングはあります。本の中で各区のバランスを取っているパートは主に

は二つありまして、一つは定点観測のところは7区で、それぞれのテーマがあります。

二つ目の人物史のパートは各区に住まわれている方を取り上げています。(麻生区では)石井(よし子)さんにお話も伺っています。

中村委員

それは存じております。区の紹介ページに「中原区、これが一番」みたいなのが少しでも書いてあったら嬉しい、みたいな感じです。

事務局(浅井)

入れられるとすると、定点観測のところでしょうか。前回の懇談会で「(各区の概略地図であるが)区の形と星マークの位置が分からない」とのご指摘をいただいて、まだ明快な回答ができずにいるのですが、そちらのスペースでしょうか。

中村委員

「多摩区は梨が一番取れる」ですとか、分からないですが「人口が一番、中原区」とか、「〇〇が一番!」といった書き方が、子どもたちは大好きです。

事務局(片岡)

確かに自分が住んでいる場所は、子どもときは愛着がありますね。

今後検討していきつつ、何かしらその場所に住んでいる、狭い範囲の人でも、この本を読んで「あ、自分の住んでいるところはこういうものなのか」と、自分事化ができるようなコンテンツが(よいと思っています)。

ありがとうございます。残り時間があと少しですので、言い残したことは何かございますか。

嶋田委員

麻生区は田んぼがありますよね。調べたのですが、川崎市はあまり田んぼないのですよ。ですので「田んぼ一番、麻生区」と言えますかね。

中村委員

ありがとうございます。そうですね。

にしにし家委員

何が一番なのか知りたいですね。

嶋田委員

坂が一番というの(も1つのアイデアになるでしょうか)

事務局(片岡)

そういうのは面白いですね。別に何か特別なものでなくても良いと思います。その

辺りは色々探っていければと思います。他に何かございますか。

鈴木（ひ）委員

こちら（「めくってわかる」の最初の2ページ）ですが、当初の市域と対応していますか。

事務局（浅井）

対応しています。

鈴木（ひ）委員

（色の濃淡だけだと）分からなかったのですが、こちらにも（次のページの現在の市域の地図に）点線を入れるのはできないでしょうか。

事務局（浅井）

うっすら濃淡があります。コピー機の限界値があるので、（見づらいかもしれませんが。）

嶋田委員

ちょうど、こちらの1924年の地図に対応しています。

鈴木（ひ）委員

実物はもう少し暗い色になっています。

事務局（片岡）

（PDFなどの）データで見ると見えるかもしれないですね。

鈴木（ひ）委員

若干分かりづらいかもしれませんね。

（書かれていることに）全然気づかなかったです。

事務局（片岡）

分かりにくいですか。

阿久津委員

太線で記載するなど（すれば分かりやすいと思う）。

中村委員

ここ（資料）のどこか右側等に、どういう年代で（区が）増えていったのかみたいなものはないのですか。各地域がいつ川崎市に編入された、どのように広がった、という情報は載せないのですか。

にしにし家委員

年表には書いてあるかもしれません。

中村委員

年表でしたっけ。何か昔、見ましたよね。

事務局（浅井）

地域の編入の歴史ですね。

中村委員

そうです。川崎市で作った 100 周年の動画はすごく分かりやすかったです。どんどんできていく感じの（動画でした）。とても分かりやすいので、これは（100 周年の動画）すごかったですよ。

事務局（片岡）

分かりやすいかもしれません。

大城委員

色が変わっていけば広がっていくことが（表現できますね）。

中村委員

せっかくここからですので、少しだけ分かったら良いと思います。それで、色を何年、何年、何年みたいな（表現がよいと思います）。41 年前に多摩区、麻生区、みたいな（表現がよいと思います）。

にしにし家委員

見た目としてはシンプルにしたいページですね。情報はなるべく少ないページにしたいです。

事務局（片岡）

そうですね。

中村委員

「いつ頃に誕生」といった記載で良いかもしれません。（ただ）二回で終わってしまいます。

でも二回で良いです。「〇〇区が誕生」だけでも良いと思います。

事務局（片岡）

そこはどのような表現が正しいか、どのような表現ができるかというもの（検討要素）もあるのかと思います。逆に、動画でしたら、どんどん広げてしまえば良いと思うのですが。

紙面ですと、例えばページごとに、何百ページも使って良いですよって言われたら、年代ごとに広げていくパラパラ漫画のようにできます。ただ、ページ数という制限があるため、うまく伝えられれば良いと思います。1 度持ち帰りとさせていただけ

ればと思います。ありがとうございます。

奇跡的に二回連続で、時間通りに進行することができました。

本日の意見交換は以上とさせていただきます。この後は、現在進行形で進めておりますワークショップの説明をさせていただきます。

それでも、堀切さん、よろしくお願いします。

（次第一４） 進捗報告／ワークショップ説明

事務局（堀切）

私からは「本の広報プランを考えるワークショップ&コンテスト」についてご報告いたします。

こちらの募集ですが、前回の懇談会でお知らせをいたしまして、参加者の募集にあたってご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

その後、応募の状況が芳しくなかったところもありまして、私から個々にお声がけをさせていただきまして、ご協力いただいた皆さま方には大変ありがたく感じております。本当にありがとうございました。6月25日に無事、第1回を開催することができました。

お申し込みいただいた皆さまですが、チームでは4チーム、個人では12名の方にご応募いただきまして、当日はほぼ皆さまにお越しいただけました。お一人はご都合が合わずに欠席でしたが、総勢22名、全6チームで、ワークショップを開催することができました。

当日は、TOPPAN株式会社の市橋さんから、プロモーションのコツについて講演をいただいた後、浅井さんからこの本についてご説明いただきました。スライドの写真にあるように、皆さま、非常に熱心にワークをやっていただきました。下段のお写真ですが、発表は全チームが白熱かつ非常にユニークなアイデアも飛び出しまして、楽しいワークショップとなりました。

皆さまのご協力があったことだと思っております。この場でお礼申し上げます。ありがとうございました。

続く、第2回は7月31日に開催する予定でございます。チームによっては、小学生の方のご参加いただいております。その他、平中学校の図書委員会のチームでご参加いただいているため、当日は夜間の開催でしたのでご出席いただかず、別の場所、別の時間でそれぞれ同じようにワークをしていただいて、7月31日に最終的な広報プランを発表し、評価させていただく予定です。優秀なプランに関しましては実際に

実行してまいります。

事務局（浅井）

何かご質問はありますか。

竹内委員

決まった広報プランはいつ我々が知ることができますか。

事務局（堀切）

そうですね、7月31日に決定する予定ですので、その後（でしょうか）。

発表するかは（発想が）なかったのですが、何かしらお披露目をさせていただこうかと思います。

それでは先ほど館長からお話させていただきましたが、お手元にチラシをお配りしておりますのでご覧ください。

「あなたの身近な川崎歴史スポット」大募集としまして、本のコンテンツの「かわさき歴史百景」に掲載する写真について市民の皆さまから応募いただき、応募作品の中から選定しまして、掲載作品を決定したいと考えております。

応募方法は、簡単な2ステップで、Logo フォーム（川崎市簡易版電子申請サービスのこと）で募集しておりますので、スマホで写真を撮って、ホームページから Logo フォームにアクセスいただいて、フォームに沿って写真を掲載して投稿していただく流れです。

チラシの下段ですが、どのような選定になるかですが、次回の編集懇談会で応募作品をご提示させていただく（予定です）。

お選びいただく方法に関しましても、負担にならないような形で、懇談会でのご意見を賜りまして、本に掲載する入賞作品を20点から30点ほど選ばせていただきたいと思いますと考えております。

その後、10月から11月に各区の区民祭やみんなの川崎祭などで、作品の中から特別賞を、5点ぐらいお好みの作品に対して投票していただく予定です。

その特別賞に選ばれたことも、「かわさき歴史百景」のコンテンツ内で反映していきたいと考えております。

本に掲載されることと併せて、ダブルチャンスとして、抽選で素敵な特典が当たります。

本にまつわる特典ということで集めております。川崎フロンターレさんや、川崎ブレイズサンダースさんの試合観戦のペアチケットや、文化施設としては日本民家園さんや、藤子・F・不二雄ミュージアムさんのチケットもご提供いただいております。チ

ネチッタさんもコンテンツの中で登場しますので、映画鑑賞のペアチケットも用意しているところです。誘因として活用していきたいと考えております。

歴史スポットのイメージですが、ホームページの引用です。このような風景や、お地蔵さん、庚申塔、などでも結構です。ご自身が考えて、これには歴史が感じられることを写真とタイトル、どうしてそれが歴史を感じるのかの売り文句を書いていたのが投稿内容のメインです。

合わせて、皆さまの方からこういった取組に興味のありそうな方に対しても、ご周知をいただければと思いますので、ぜひとも（よろしくお願いします）

中村委員

チラシは今日もらって帰れる（のでしょうか）。まだ小学校に配ってないのですよね？

柿木館長

夏休みまでにはお子さんのお手元に（届くと思います）。3年生から6年生（が対象です）。

中村委員

それならギリギリもらえますね。

柿木館長

5万枚近く（用意しています）。来週には通送便でお送りします。

事務局（浅井）

夏休み明けてもまだ（応募受付の）時期はあります。

事務局（堀切）

そうです。9月4日までの募集となっており、夏休み明けでも大丈夫です。一人何作品でも大丈夫です。

事務局（浅井）

タイトルにダジャレがついたもの（も応募いただきたいです）。

今撮った写真でなくても構わないですので、お手元にある、例えば古いご家族の写真も、その写真の中に写っている方の許諾があれば、スマホで撮って投稿することも可能、としています。

柿木館長

本に掲載しますので、個人様が写っていたり、注意しなければいけない部分もあります。その辺りはホームページ上で細かく注意事項を載せております。その辺りもご案内いただければと思います。

にしにし家委員

Instagram など dengan かいゆうのは投稿しないですか。

投稿していたら、我々のアカウントとかでも拡散しやすいと思うんですけど。

事務局（堀切）

そうですね、Instagram は、市の公式 Instagram との切り分けがなかなか難しいところがありまして、諦めてしまいました。

SNS での告知としては、市の公式 X を最初 6 月 15 日に投稿しております。この後ですが、LINE でも配信を行う予定です。SNS も活用して発信してまいります。

にしにし家委員

X で投稿されているのですね。見てみます。

事務局（片岡）

以上でございます。ありがとうございます。そうしましたら、以上で説明を終わります。最後に事務局から説明させていただきます。

（次第一 4） 総括／次回案内

事務局（浅井）

本日もありがとうございます。

今回は第 11 回になるのですが、先ほどご案内しました市民の皆さんからの歴史スポットに対して委員の皆さまからのご意見や感想をいただく会とする予定です。

日程は、9 月 9 日から 18 日までの、水、木、金曜日で設定したいと思います。シルバーウィークがこの次の週ですので、シルバーウィークより前にさせていただき、10 月～11 月の区民祭等の市民投票に間に合わせたいと考えております。また、明日以降にメールでお伺いいたします。

次回以降のテーマですが、第 11 回は歴史スポット投稿作品の選定が主なテーマです。第 12 回が発行後の活用方法についてお話し合いをいただければと思います。第 13 回は 2027 年の 2 月を予定しておりますが、この頃には製本はまだですが、印刷は済んでいるはずですので、印刷物を見ていただきながら、これまでの活動の振り返りをしていただければと思っております。ありがとうございます。

事務局（片岡）

ありがとうございます。そうしましたら、以上で第 10 回編集懇談会を終了させていただきます。

本日も様々なご意見をいただきまして、誠にありがとうございます。引き続きよろ

しくお願いいたします。本日はありがとうございました。

以上